

現代社会におけるスポーツルール変更の動因について —メディア、特にテレビとスポーツの関係に着目して—

大澤 涼 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)
指導教員 菅井 京子

キーワード：スポーツルール メディア 面白さの保障

1. はじめに

今日、スポーツはメディアの影響をうけやすく、人気のあるスポーツは高い視聴率を得ることができ、見ている人が多い中でコマercialを流すことを期待して多くのスポンサーが集まる。こうしてスポーツとメディア、さらに経済の関係が非常に深くなっている。メディアの発達が発達がスポーツに大きな影響を与えるようになった。競技者とルール、そしてスポーツとメディアが共存していけるかが、重要な時代になった。メディアの影響によりルールが変更されたという事態も起こってきている。本研究では、『中村敏雄著作集 スポーツのルール学』、『スポーツルールはなぜ不公平か』、『スポーツルールの倫理』をもとにスポーツのルールは本来どうあるべきなのかについて明らかにする。さらに、『現代社会とスポーツ』、『変容する現代社会とスポーツ』を参考に現代社会におけるスポーツルール変更の動因、メディアとスポーツの関係についても考察する。

2. 結果と考察

ルールには、法的安定性の確保、正義の実現、面白さの保障の役割があり、スポーツルールの中で重要なのが面白さの保障である。

本来、ルールとは人間のものであり、スポーツを楽しむために存在するものである。しかし、スポーツがテレビに登場するようになると、放送時間の制限やコマercialを挟めるように休憩時間を設定し、メディアによる商業的なルール変更が行われた。そのため選手はそのルールに従わざるおえなくなり今まで自分たちで作ってきたペースやゲームの流れがメディアに奪われた。このようにメディアが直接ルールを変えていると言える。次第にメディアとスポーツの関係は協力から支配へと形を変えた。

本来ルールをコントロールするのは連盟や

協会のはずである。そこで、平成22年度の日本バレーボール協会、日本卓球協会、平成21年度のバドミントン協会の正味財産増減計算書を見ると各協会の運営を決定づけているのがスポンサー、放映権、そして会員の3つであり、これらはメディアからの収入である。正味財産増減計算書を見ると、どのスポーツも全体の約3～4割がメディアに関係する収入が存在していることが読み取れた。この3つで成り立っている協会は立場が弱くなる。現代人は常に発展を目指す傾向にある。同じように協会もマイナーからメジャーへと目指している。スポーツの競技の普及や発展にはこれで得られる収入は重要であるが、これを切ってしまうと協会の経営が苦しくなるのは目に見えている。これによりメディアのいいなりとなり、メディアの思い通りにルール変更がなされていくことになる。

3. おわりに

今後のルール変更では、メディア主体でなく、スポーツが主導権を握り面白さの保障を残していかなければいけない。また、スポーツは本来、遊びが原点であるということをつかえなおし、協会はメディアとの関係を協力へと戻し各スポーツ協会が主体となってルールを作らなければならない。協会はマイナー、メジャーにとらわれず自立する力を持つ必要がある。

注及び引用・参考文献

生島淳(2003) スポーツルールはなぜ不公平か. 新潮社.

清水論(2008) 中村敏雄著作集スポーツのルール学. 創文企画.

守野信次(2007) スポーツルールの倫理. 大修館書店.
日本スポーツ学会編(1998) 変容する現代社会とスポーツ. 世界思想社.

渡邊融(2001) 現代社会とスポーツ. 財団法人 放送大学教育振興会.